

平成30年12月17日

能美市議会議長

南山 修一 様

人口減少等対策特別委員会

委員長 嵐 昭夫

人口減少等対策特別委員会 行政視察報告書

1. 期 間： 平成30年10月16日(火)～17日(水)
2. 視察先： 岐阜県恵那市 恵那市役所
岐阜県中津川市 中津川市役所
3. 目 的： 1) 移住定住支援策について
恵那暮らしサポートセンターについて (恵那市役所)
2) 移住定住支援策について
移住ガイドブック「中津川に住もう！」について
(中津川市役所)
4. 参加者： 嵐 昭夫、開道 昌信、近藤 啓子、居村 清二
田中大佐久、卯野 修三 (随員) 末政議会事務局

5. 視察概要

今回は岐阜県恵那市、中津川市を訪れ、両市の移住定住支援策を軸に移住定住への取り組みポイント、具体的な成功例やその課題について調査した。

恵那市においては目玉となる「恵那暮らしサポートセンター」の設置目的、役割、またどのような体制でセンターが運営されているのか、中津川市にあっては「移住定住ガイドブック」の評価や活用状況、ボランティア隊へのサポート体制などについて、能美市での施策にどのように反映できるかを考えると共に、人口減少等の対策に参考となる点を探った。

●恵那市役所 (移住定住支援策、恵那暮らしサポートセンターについて)

○平成17年から人口が減少基調にあることを想定し、平成25年に「恵那暮らしサポートセンター」を設置、平成28年度から移住定住推進事業をスタートさせた。

○平成29年に、市役所内に移住定住推進室を設置、「恵那くらしビジネスサポートセンター」をオープン、「くらし」と「はたらく」をワンストップで支援開始。

○「くらし」の中では、移住定住推進事業のなかの「新婚おめでとう10事業」「新婚生活はじめよまいか事業」「一戸建てに住もまいか事業」「親元で暮らそまいか事業」「定住促進奨励金」「空き家改修事業」など、ネーミングがユニークでわかりやすい。

○「はたらく」では、恵那市商工振興補助金の中で、「恵那ブランド」に着目、新商品の開発を支援しているところが注目される。

○「恵那暮らしサポートセンター」はJR恵那駅近くの空き店舗を改装、明るい雰囲気、役所の施設っぽくないところが新鮮であった。移住定住と空き家バンク登録の新規相談件数も、順調に増えている様である。

●中津川市役所（移住定住支援策、移住ガイドブックについて）

○中津川市も恵那市同様、平成17年から人口が5000人減少しているという事実があり、今回作成された移住ガイドブック「中津川に住もう！」に市の移住・定住にかける意気込みを感じた。

○内容は、「空き家再生リフォーム補助」「空き家店舗活用支援」さらにはユニークな「ふるさとお帰り支援」「新婚さんいらっしゃい」「東濃桧と飛騨の杉の家づくり支援」、市営住宅には「U・Iターン用」などがあり、プログラムが盛り沢山と感じた。

○2007年にリニア中央新幹線が完成し、中津川市内に「岐阜県駅」が出来る予定で、車両基地もできるとの事、ぜひ、都会への通勤を含めた、新しい形での移住定住の施策等も展開できるのではないかと感じた。

○中津川市をPRするテレビドラマも制作するとの事で、この変化をチャンスと捉えたいとする意欲が伝わってきた。

○能美市と中津川市の様々な指標の比較表を作成されて、事前のリサーチ力が鋭かったが、会合の冒頭場面で、能美市の発音は「のみし」ではなく「のうみし」であったのが残念であった。

●視察所感

恵那市ではビジネス相談員と地域おこし協力隊や不動産会社としっかり連携している点が強みと感じた。中津川市でのこの視察テーマへの対応は「定住推進部」であった、移住施策も持ち合わせているが、それは「広く・浅く」、それよりも転出をいかに防ぐかを重点に「地域に深く」を、追いかけている点に好感がもてた。

両市に共通して言えることは、全国同じような施策にみえても地域の独自色（地域の強み）をどう埋め込んでいくかに腐心しているところが垣間見えた。今後の能美市の施策に大いに参考にしていきたい。